

靈蹟本山 岩本山 實相寺

れいせきほんざん いわもとやま じっそうじ (山号 がんぼんざん)

由緒

平安時代末期、鳥羽法皇が比叡山横川の智印法師に命じて建立させた勅願の寺です。天台宗智証法師が唐から持ち帰った二部の一切経のうちの一部が経蔵に収められ（もう一部は三井寺）西の比叡山と並んで東の僧徒の道場でした。鎌倉時代、飢餓や疫病、天変地変が相次ぎ、対策を講ずべき幕府に内紛がおき、庶民は苦しみにあえいでおりました。

当時、鎌倉にいた日蓮上人は、このような三災七難の原因や対策は必ず仏典の中に記されていると確信し、一切経を閲覧するため実相寺に入りました。

それから2年余後、日蓮上人は一切経から立正安国の道理を極め、文應元年(1260)春、鎌倉に帰り、立正安国論を著しました。

実相寺の最盛期は平安時代末期で4キロメートル四方の面積があったそうです。開基は天台宗でしたが、日蓮上人の影響で日蓮宗に改宗して現在に至っています。

総門

江戸時代の末期に再建されました。

薬医門と言われる形式の門で、黒い色であることから地元では「黒門」といわれています。

山門（仁王門）

三間一戸の楼門形式で、二階楼上にはお釈迦様と16羅漢様が安置されており、柱には享保年間と記してある事からそれ以前の建立とされます。

※仁王像(2.41m)は江戸初期の作と言われ、富士市指定文化財です。

鐘楼

江戸初期の建立。袴腰があり、法隆寺東院の鐘楼と同じ様式。

江戸時代には富士川渡船や、時の鐘を撞いたそうです。

本堂

昭和30年焼失し昭和37年再建されました。本尊は、十戒曼荼羅と日蓮上人像です。

本堂前の青銅の日蓮上人像は、高村光雲作です。

※高村光雲は「千恵子抄」を書いた高村光太郎の父で、上野公園の西郷隆盛像、皇居前の楠正成像が代表作です。

祖師堂

日蓮上人の直弟子日法上人が彫刻した祖師像が安置されています。日蓮上人が亡くなった10月13日の月遅れの忌日である、11月の第2土、日曜日がお会式で夕方、御開帳されます。欄間の花鳥、向拝の龍の彫刻は、江戸末期富士川以東でその人ありと知られた三島の渡辺長吉作です。

高座石

日蓮上人が学僧に説法した場所といわれています。

米研ぎ井戸

日朗上人が日蓮上人のために米を研いだといわれています。

一切経蔵

一切経を納めた経蔵で、日蓮上人が立正安国論の構想を練ったといわれています。安政の大地震(1854)で壊れ文久2年(1862)再建されました。三島大社の彫刻でも知られている、江戸の彫刻家小沢半兵衛作の向拝の七福神と、経蔵内の一切経、宗版4巻及び天海版6174巻は、富士市指定の文化財になっています。

